校友時報

平成5年12月21日
編集人兼発行人
秋田県能代市高瑞2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

4月から50分授業

七時間めに選択授業

本校は来年度から、一コマ六十五分、一日五コマの授業体制をやめ、五十分授業を六時間、更に七時間目の選択授業を行うという新しい体制をとることになった。

六十五分授業は平成元年度から行ってきたが、大学合格率の向上、難関校への合格など確かな効果を上げてきたと評価されている。

今回それを中止する理由としては、一つには来年度から実施される新しい学習指導要領にうたわれている「生徒一人ひとりを生かす」という目標を達成するために、選択授業が組みやすく、生徒や先生の状況に素早く対応できるような柔軟性を備えた時間割を作る必要があること、また二つめには、将来の完全週五日制を先取りして、土曜日の有益な使い方を工夫したということがあげられる。

今後は従来も実施してきた火・金曜日の「ぶらさがり」とか「補習」とかを、生徒一人ひとりの必要に応じて、七時間めの「選択授業」として固定する。また土曜日は、いろいろな行事や授業の補充、各種のテスト等に充てて活用しようという方針である。

選択授業については詳しいことは未定だが、国・数・英などの五教科を中心に実施する予定である。選択しない生徒はクラブ活動をしたり帰宅したりしても良いことになるが、進学志望が大半を占める本校生の多くは七時間めまでの授業を受けることになるのではないかと見られている。

選択授業は毎週一年生は三回、二年生は四回。三年生は二年生と同様に、七時間めに四回と水曜日の四時間めにも「フリータイム」という選択授業を実施する。この時間は、これまでの教科の概念にしばられず学校独自でその内容や形態を決めることができる時間である。

期待もあるが疑問や不安も

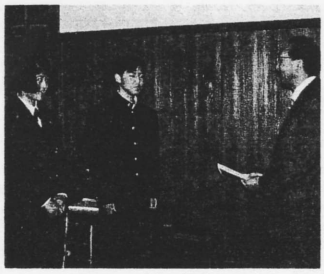
生徒に対する来年度からの授業についての具体的な説明はまだ行われていないため、生徒の声としては新しい気持ちでがんばるという人もいるが、「せっかく六十五分に慣れて充実しているのでリズムが狂う」「六十五分でやったことを五十分でとなると先生方は急いで、生徒にとってはわかりにくくなるのではないか」「四時すぎまで授業が終わらないとなると実質的に部活動はできなくなるし、選択授業を受けないのも心配だ。学校では部活動をどう考えているのか説明してほしい。」「選択授業が受けられない人へ長期休みに集中講義を行うというが、集中講義で間に合うなら普段はもっと早く帰してほしい」「毎日のように四時過ぎまでの授業ではタクタになる。」……など、不安や疑問を抱く生徒もいる。

三年受験生の健闘を祈る！

三年生の大学受験はいよいよ本番。一月に入ると私大の願書受付開始、十五・十六両日はセンター試験。ガンバレ三年生。

第五小へ火災見舞金

新生徒会　指導力を発揮



五小校長へ火災見舞金を手渡す

今年度後期の生徒会役員となった葛西恵介（二F）、佐々木一秀（二G）、佐藤知彦（一G）の三役員と執行部員は、さっそくリーダーシップを発揮している。

まず十月には、九月二十三日に火事で焼けた第五小学校への募金活動に取りくんだ。十月二日までの間に全校生から六万五千六百五円のお金が集まったが、これは十月二十日に会長の葛西君とJRC部長の田中佐織さんが代表して同校を訪問。全校生を代表して八田校長先生に手渡した。

五小の子供たちへ本を贈ろう!!

生徒会執行部は、先の第五小学校への募金活動に続けて、「第五小学校に本を贈ろう」という呼びかけを始めた。十二月九日付の生徒会通信によると、五小図書館には焼ける前には三千冊以上の本があったが、これはすべて燃えてしまった。しかし市の復興費用ではこれまでの半分ほどの本しか購入できないという。

本を集める予定期間は今日二十一日までであったが、係ではこれから一冊一冊汚れや本の内容をチェックするので、補習に来る間に執行部室まで持ってきてくれれば一括して贈りたいと言っている。

呼びかけに応じて、きのうまでに届けられた本は九十冊あまり。どれも能高生が小学校時代に読んだと見られる童話や科学図鑑で、よく選んでくれたらしく、きれいな本が大部分である。

三役座談会

文化部を活発に

＝今後の生徒会＝

学校改革は難しい

生徒会役員選挙で当選した新三役の葛西、佐々木、佐藤の三君に、今後の活動について話し合いをしてもらった。

司会　どのような生徒会活動を進めて行こうとしているのですか。

葛西　今までの生徒会活動は不鮮明な所が多く、やろうとしていることのねらいや内容が生徒にうまく伝わらなかったなと思うので、そこを改善したい。

佐藤　生徒が自由に好きな活動ができる学校にできればいいと思う。

佐々木　そのためには生徒自身がもっとその場の行動に自覚を持って行動するべきではないだろうか。

司会　部活動について考えていることはありますか。

葛西　今年は、今まであまり活動していなかった文化部に、普段も能高祭のときも一層の活躍を期待している。そして、それが、僕が選挙の時に言った「文化的な能高祭」につながると思う。

佐藤　僕は、能高祭はまだ一度しか見たことがないけれど、中学校までとは違った異常なほどの盛りあがりがあったので、これからも、そういう校風は残した方がいいと思う。

葛西　僕もそれはいいと思うが、あまりにもハメをはずしすぎるのもよくないのではないか。

司会　例えばホームルームデコなどは、どのように改善していくのですか。

葛西　ホームルームデコで、一番希望が多いのが、出店関係だと思う。来年度は減らす方向で話が進みそうだ。

佐藤　出店に代わってメインになるようなホームルームデコを考えよう。

佐々木　例えば、今年のお化け屋敷は、なかなか評判が良かった。そういう出店ではないが楽しめるものをいろいろやってみたらどうだろうか。

葛西　評判といえば、能高祭には、一般のお客さんが来るのだから、一般のお客さんの感想も聞いてみたいと思う。うちの母が見に来た時、「生徒達は楽しんでいるように見えたけれど一般の人のことも考えて、もっと見せるものという点を考えに入れればもっとよくなる」と言っていた。

佐々木　やはり能高祭については改善がかなり必要だろう。

司会　文化祭中心の話し合いとなりましたが、最後に葛西君にひと言お願いいたします。

葛西　学校を改革していくことはとても大変なことだと思うが、一生懸命努力していきますのでみなさんご協力おねがいいたします。

総合教養講座

社会へ出る人のために

講演や技術指導

「ねむの木」の児童と一緒に活動する本校生

三年生の、卒業後すぐに社会人として活躍する人たちを対象に、「総合教養講座」が行われている。この講座は毎日四・五校時を使って行われ、就職内定者や専門学校への進学を希望している三十八名の人たちが参加している。内容は講演、実技指導、見学、体育、奉仕活動などバラエティーに富んだものでどれも社会人の常識・素養として大切なことばかり。

いくつか紹介すると、市教育委員長で本校同窓会副会長の花下哲夫氏、医師の工藤茂宣氏、株式会社塚清の塚本真一氏他による講演、市立商業高校にでかけて受けるワープロ講座、長慶寺での座禅、能代火力発電所などの職場見学、NTTの広報担当による電話の応対マナー等々工夫をこらした企画である。

参加者が特に心を動かされたのは十二月八日に行われた施設訪問。二班に分かれて、県立比内養護学校のねむの木分教室と特別養護老人ホーム長寿園を訪問した。ねむの木分教室を訪問した三Aの柴田佳葉子さんは、「行く前は正直言って怖いような感じだったが、一緒に遊んだりして子供はみんなかわいいと思った。先生方も大変な仕事なのに明るくゆったりしていた。この見学を機会に、将来障害者へのボランティアなどやってみたいと思った」と語ってくれた。

この講座を担当している田中先生は、「初めての試みということで心配な点もあったが、生徒たちがよくやってくれて、とても充実したものになったと思う。学校外の人達と接することによって、机に座っているだけでは学べないことが学べたのではないか。」と話しておられた。

寒い冬休み

寒い時季だが、勉強にウィンタースポーツに充実した冬休みを送ろう。

海点

一年生の書いた小文の一節を二つ紹介しよう。能代高校生のあり方を問うているという点で共通したテーマを取り上げている。

▼何を考えているのだろか？だれもがそう思う行動を10月のある昼下がりに目撃した。

放課になり気がゆるんでいたのか無神経なのかその能高生は車の通行のはげしい道路に迷いもなく突っ込んでいった。さいわいカーブで車のスピードがゆるくなり、ドライバーの発見がはやかったので大きな事故にはならず、その女生徒も無傷ですんだ。

この非常識な生徒、あやまることもなく、ヘラヘラ笑って歩道にもどった。これでこの出来事は終った。

こんな非常識な人が能高生と名乗ってもいいのでしょうか？幼稚園や小学校の子供じゃあるまいし、もっと常識的な行動をしてほしいもの。勉強なんかよりも、一般常識、マナーが出来る人のほうが立派ではないのかなァ。

▼11月22日から運行されるスクールバス。毎日乗っている電車。いつもマナーが悪いと注意されているが、これは一人一人が自覚を持てば自然となおってくるものだろう。

これからの我々にとってはいかに自分をコントロールしていくかが問題だ。責任を持つこと。それは生きていく中で普遍的に存在するものだ。自分がどれだけその重さに耐えられるか、その厳しさを乗り越えていけるか。自分で選択したものには自分で責任を持たねばならないのだ。私達はそれを生活の中で知る必要がある。